

出題 螢雪ゼミナール

則武校・船橋巧



全科目を指導しています。英語の学習を通じて、全科目に通じる勉強法を紹介します！

問題【英語】

今日は、英語以外の教科で出てくる英単語を見てみましょう。教科と英単語、およびその教科での書かれ方を書いているので、それぞれの英単語がどのような意味で使われているか教えてください。

《理科》

(1) force (F) (2) carbon (C)

《数学》

(3) midpoint (M) (4) probability
(p , 高校では P)

豆知識 雑学コラム

教科を超える英単語

数学や理科など、全世界共通の原理・原則を記述する教科では、たとえ日本の教科書であっても英語が使われている部分があります。英単語は英語の勉強だけでなく、他の教科にも通じるのです。そんな英単語でも、「なぜこの単語を使うのか」など理由がありますので、あわせておさえましょう。

(1)は「力」を表しますが、和英辞書などではpowerという単語も出てきます。この二つの違いは、forceには強制力があり、powerには強制力がない、というものです。高校生になると「物体に力がかかると、運動の仕方がかわる」という事実を運動方程式という形で習いますが、これは「物体にかかる力は、物体の運動を強制的に変える」と言い換えられます。そのため、強制力のあるforceを用います。

また、(2)のcarbonは「炭素」です。多くの元素記号は英単語由来ですので、元素記号を覚えるにも英単語とセットにすれば一石二鳥です。とはいえ、鉄Fe、銀Ag、金Auなど英単語の頭文字とはまったく違うものがあるので、そういったものは語呂で覚えてしまいましょう。語呂合わせは5月7日付の「岐阜新聞真学塾GOLD」に掲載されていたので、覚えていない人は読み直してください！ ケイセツのホームページからでも読めますし、授業ではもっと強烈に頭に残る指導をしています！

さて、(3)はmid-とpointを分けると分かりやすいです。mid-だけではピンとこない人は、midnightやmiddleを思い出しましょう。それぞれ「真夜中＝夜の真ん中」、「中央」という意味ですね。これらから、mid-は「真ん中」という意味を持つと推測できます。このmid-のように、単語の頭に置いて意味を付け加える部分を接頭辞と言います。逆に、単語の末に置いたものが接尾辞です。接頭辞や接尾辞がわかると、知っている英単語を何倍にも増やすことができます。ぜひ意識しましょう！

【解答】

(1) 力 (2) 炭素 (3) 中点 (4) 確率